

# 政治の役割は、命・健康・くらしを守ること

## 「公立・公的病院の統廃合計画の撤回を求める意見書」は否決に

3月定例会に「公立・公的病院の統廃合計画の撤回を求める意見書」を日本共産党が提出、3月22日に審議されました。コロナに感染しても自宅・ホテル療養せざるを得ない方もおり、特に公立・公的病院の病床では6割以上をコロナ病床にしている事例を示しながら、これ以上

病床を減らさないことが必要であると主張しましたが、賛成少数(竹田えつ子・すわみつえ議員他5名)で否決されました。

これからも命や健康を守るために、諦めず声を上げ続けます。

### 日本共産党の代表質問より

## 新ごみ処理施設は、白紙になった候補地に固執することなく、市民の合意と納得のもと進めること

市は、安養寺・郷地を候補地としており、新たな枠組み合意形成をめざし事業を進め、枠組が決定し、事業計画が明確になり次第、市民に公表し説明会を開催するとしていました。

自治基本条例では、市民が主人公と謳っています。この趣旨に沿った対応を引き続き求めていきます。

## 敬老祝い金支給事業の改悪はやめ、後期高齢者医療の窓口負担2倍に反対し、高齢者にあたたかい政治を

市は、高齢者が10年間で1万人増えており、長寿を祝福するという本来の目的を主眼に、喜

寿で7千円、米寿で1万5千円、白寿で2万円、百寿で3万円にしました。また、団塊の世代が後期高齢者になることが見込まれる中、若者と高齢者が支え合い、若い世代の負担を抑えることが求められており、高齢者に負担をかけるが、持続可能な制度にするために必要と、国の意向を含んだ答弁に終始しました。

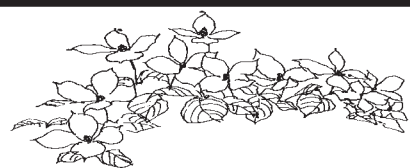
高齢者にあたたかい政治実現のために頑張っていきます。

## すべての子どもが生き生きと過ごせる学校に、不登校児童に支援員を配置して、学校の中で居場所づくりを

市は、本人や保護者の状況を踏まえ、学校と支援センター内の適応指導教室で対応しており、新たに学校への支援員の配置は考えていないと冷たい答弁でした。引き続き声を届けていきます。

### 6月議会日程(予定)

- 5月25日(火) 告示
- 5月27日(木) 請願・一般質問締め切り
- 6月 1日(火)・4日(金) 本会議
- 6月 7日(月)・8日(火) 各常任委員会
- 6月10日(木)・11日(金)・15日(火)・16日(水) 一般質問
- 6月18日(金) 本会議



# このす民報

## 議会報告版

2021年4・5月号 第418号

日本共産党鴻巣市委員会の見解を紹介いたします。

日本共産党鴻巣市議団  
 竹田えつ子 すわみつえ  
 ☎542-7072 ☎507-4151  
 FAX542-7101 FAX596-9440

★政務活動費で議会報告を作成しています。

# 新年度予算決定す

一般会計390億3500万円  
 特別会計(国保・介護など)227億9千万円  
 水道下水道会計87億8397万8千円  
 総額706億897万8千円

3月定例会は2月24日から3月22日まで開催されました。

市長は、施政方針で「5期目の任期で『行政は最大のサービス業である』という基本精神で着実に成果を積み上げてきた」と述べました。

ところが在任中、喫緊の課題であるとして取り組んだ「総合病院誘致」「ごみ処理施設建設」は白紙撤回となり、存続を求める地域住民の声に反して148年の歴史ある笠原小学校の廃校を決めました。

日本共産党議員団は、59議案に対し市民の目線で審議を行い49件に賛成し、10件に反対しました。

## 日本共産党 コロナ禍において不要不急の事業を見直し 市民のいのちと暮らしを守ることを求め

# 一般会計予算・介護保険特別会計予算に反対

### 市民が求める急ぐ事業か

- 市役所前の埼玉縣信用金庫の土地、建物を「賑わい創出交流拠点」として新たな税金投入。
- 「道の駅」用地買収と整備設計が3億3,638万円。
- 「コウノトリ飼育施設」管理運営委託に4,913万円。

介護保険料57,600円⇒62,400円  
 年間4,800円も値上げ(基準額)

低所得の方の保険料軽減措置があるものの、65歳以上のすべての市民が保険料値上げとなります。年金が引き下げられる中、社会保障費の負担は重くなります。

### 少人数学級実現で子どもたちに行き届いた教育を

「笠原小跡地利用」の検討はすでに2020年10月に「基本方針」を決定し、11月に「笠原小学校跡地検討委員会」を設立、すでに3回開催していました。

新年度は民間企業に委託する903万円の予算です。地域の方の意見を最大限生かすこと。また、適正配置の名の下の小中学校統廃合ではなく、少人数学級の実現で子どもたちに行き届いた教育が行われるよう求めました。



竹田えつ子議員

# くらしを支え、公平公正な市政に

## コロナ禍での生活支援について

「突然解雇された」「バイトもなくなった」売り上げが大幅に減った事業者など、多くの市民が苦しんでいます。コロナ禍での実態と支援を求めて質問しました。

市は、生活困窮者自立支援法に基づく相談業務を社協に委託しており、若い世代と男性の相談が多くなってきていること、「緊急小口資金貸付」「総合支援資金貸付」も増えていると答えました。

### 住民税非課税の場合、返済猶予に

小口貸付や総合支援貸付は、申告で非課税の場合、返済不要になることをもっと周知することを社協にお願いするよう質しました。

社協として「社協だより」を通じて各種支援制度を周知していくと、市は答えました。

**「生活保護の申請は国民の権利です。ためらわずにご相談ください」**

市としてお知らせし、必要な方に支援がつかないようにしていきたくありません。

## 困っている方にやさしい鴻巣駅に

鴻巣駅東口にエレベーター設置と下りエスカレーター設置、西口にエスカレーター設置をすること、またこの間のJRとの協議内容について質問しました。

市は、県のまちづくり条例によるバリアフリー化の設置基準は、エレベーター設置を基本としていること。東口にエレベーター設置については、JRとの協議を行いながら調査を進めていくには、時間と費用

を有することから、西口のエレベーターとエルミビルのエレベーターを利用してほしいと、前回と同じ答弁でした。

困っている方にやさしい鴻巣駅になるよう引き続き声を届けていきます。

## 市道H-223号線計画地に市長の土地が

市道H-223号線の道路は、免許センター近くから元荒川に橋を架け対岸に抜ける計画で、2017年の9月議会で「ふるさと総合緑道」の一環として決まりました。その9月議会で、計画道路地内に市長の土地があることが判明しています。特養ホーム建設計画が、白紙になった経緯からも市民の理解は得られないと考え、計画の見直しを求めました。

市は、この道路計画は、「ふるさと総合緑道」の利便性向上や地元要望を踏まえて計画されたものであり、議会で承認を得ており引き続き進めるとしました。

### 市長の政治的道義的見解は答えず

公共の利益としながら自らの土地に道路を造ることについて、政治的道義的見解を市長に質しましたが「関係者がいる事業であるため、論じるのは適切ではない」と市長ではなく、都市建設部長が答えました。

他に「パーキングこのす」について、鴻巣駅東口駅通り地区再開発事業について質問しました。



すわみつえ議員

# 特別養護老人ホーム(仮称) 第二福富の郷の建設計画は「市長の土地利用に際し、住民からの理解が得られないため」取り下げられた

昨年、様々なマスメディアでも取り上げられ市内外で話題になりました。市民から「市長の土地に特養ホームをつくるのはいかがなものか」と疑義の声が大変多く寄せられた「(仮称) 第二福富の郷」は、このとり福祉会が建設計画書の取り下げをしたことで白紙となりました。

事業採択をした埼玉県、整備に関しての意見書を提出した鴻巣市、建設予定地の契約当事者としての市長、計画策定者のこのとり福祉会、いったいどこに問題があったのか、検証すべきと一般質問を致しました。以下、市長との一問一答です。

## 法人からの申し入れに断るべきだったのでは

**すわ:** 介護保険事業を運営する行政の長と、サービスを提供する側が契約関係にあることが、そもそも間違いだったと思います。

きっぱりと断るべきだったと思いませんか。

**市長:** たとえ市長の土地であろうと個人の土地でありますので、それで県が承認したのではと。

市の福祉施策、老人ホームの特養の待機を考えたとときに、どうしても必要な施設です。そういう中で、法人から再三要請がありましたのでやむを得ずこの土地については承諾をしました。



「用水路の復元工事」このとり福祉会が整備した6m道路は計画取り下げのため福祉会負担で復元することになった。本年4月12日撮影

## 取り下げ理由聞いていない

**すわ:** 12月11日の地元説明会で、法人の理事は「白紙を含めて考える」と発言せざるを得なかった。こういった事実を契約当事者の市長は、法人から報告をされないはずはないのでは。

**市長:** 取り下げ理由が私の土地だという、それが理由であるということであれば非常に私も遺憾であります。

## 市長の土地が問題だとは思わない?

**すわ:** 市長として市民へ経緯と結果そして、今後の計画を説明する責任があるとは思いませんか。

**市長:** 県の担当部署で、承認をしたということでありまして、市長の土地ということは全く承認には関係ないということですので伺っておりますので、それらについては私は答えられない部分です。

本当がわかる明日が見える

しんぶん 赤旗



●日刊紙/月3,497円

●日曜版/月930円

新型コロナ、政治、社会保障、経済、...「本当のことが知りたい」その思いにこたえる新聞です。暮らしに役立つ情報も満載です。

法律相談は毎月第4金曜日13:30~15:00日本共産党鴻巣市委員会事務所